



スタンダードコース

課題 「博物館・美術館の展示」について

制限字数=800 字 時間=60 分

2026 年 2 月、文部科学省は国立博物館・美術館の 26 年度から 30 年度までの中期目標を提示した。国立博物館・美術館は、入館料やグッズ販売などによる自己収入のほか、国からの交付金によって運営されているが、自己収入の割合は現在、平均で約 5 割となっている。中期目標では、その割合を 30 年度までに 65%に引き上げるとし、4 割を下回る場合などには再編の対象に指定。展示品や展示方法の見直しなどを求めるなどとしている。こうした数値目標が示されるのは初めてのことである。

国立の博物館・美術館には、文化振興の中心的拠点として、文化財や美術品の収集・保管・公開を通じ、文化の向上・発展や次世代への継承、さらには国際文化交流の推進などを担う役割がある。今回の中期目標では、こうした役割を果たしながら、これまで以上に来館者数を増やすため、来館動機につながる展示の強化を図ることが掲げられた。

あなたは、博物館や美術館でどのような展示が行われれば来館者数が増えると思うか。自分が行ってみたい博物館・美術館の展示企画を具体的に考え、800 字以内で述べよ。



マスターコース

課題 「サイバー犯罪」について

制限字数=1200 字 時間=90 分

デジタル社会が進む中、サイバー犯罪への対策が重要な課題となっている。

その一つであるランサムウェアによるサイバー攻撃は脅威を増しており、2025 年にはアサヒビールホールディングスが甚大な被害を受けた。コンピューターやネットワークに侵入し、データの改ざんや破壊、情報の窃取などを行うサイバー攻撃は、ときに国民生活に大きな影響を与え、国を挙げて対策すべき課題となっている。2025 年には、被害を未然に防ぐ「能動的サイバー防御」の体制を構築するため、サイバー対処能力強化法および同整備法が成立した。

サイバー攻撃以外にも、フィッシング詐欺や SNS 型特殊詐欺をはじめとする高度化・巧妙化したサイバー犯罪が次々と出現しており、誰もがその脅威に日常的にさらされている。このため、個人・社会の双方において、より一層の注意と対策が求められている。

あなたは、デジタル社会を維持しながらサイバー犯罪を防ぐためにはどのような取り組みが必要であると思うか。サイバー犯罪の現状を踏まえたうえで、具体的な取り組みについて 1200 字以内で述べよ。